

学習内容報告書 フォーマット

学校名	北海道標津高等学校
授業者	鈴木祐二

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

氷下待網漁体験 野付湾 Ice Fishing

1-2. 学年

2 学年 選択生徒

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

学校設定科目 環境保護 地域と自然

1-4. 単元の概要

野付半島ネイチャーセンター主催で行われる厳冬期の伝統漁である野付半島の氷下待網漁を体験する。夏季とは異なる自然環境を体感し、海からの恵みを実感する。また、伝統漁を体験することで地域の産業を理解する。厳冬期に渡ってくる猛禽類（オオワシ・オジロワシ）の観察を行い、人との関わりのなかで生活する姿から自然と人のあるべき姿について考察する。

地域の気候にあわせた海洋レジャーである野付湾のアイスフィッシングを体験することで、冬季の自然を感じ、海の恵みに感謝する。

【協力機関・講師】野付半島ネイチャーセンター

1-5. 単元設定の理由・ねらい

- 1 地域の水産業を理解する。また、人と自然の関わり方について考えを深める。（自然環境系科目）
- 2 漁業を体験することで、海の豊かさを実感することで海洋環境を含め、それを取り巻く動植物の保全に向けて進んで取り組む姿勢を身につける。（海洋教育パイオニアスクール単元開発）
- 3 アイスフィッシングを通して、地域特有の気候風土を実感し、海からの恵みを感じる心を養う。（海洋教育パイオニアスクール単元開発）

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・海に親しみ楽しむ態度や率先して海洋環境を保全していこうとする行動力。
- ・身近な海の資源の豊かさを実感し、海と陸の繋がりを理解し、海の豊かさと陸の豊かさを合わせて環境を守る態度。
- ・自然と人の関わりについて考える力。

1-7. 単元の展開（全 時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	オリエンテーション 当日の行動確認	外部連携 野付半島ネイチャーセンター専門員と連携。 体験ツアーへ申込
4	氷下待網漁の体験 野付半島ネイチャーセンター専門員およびサ ーモン科学館専門員からの講義	評価 ・積極的に行動、質問などができているか。 ・野付湾の魚種、鳥類を観察し、分類できるよう になったか。
1	事後指導 とれた魚種の分類 漁と自然の関わり方についてディスカッショ ン アイスフィッシング準備	
2	アイスフィッシング ・アイドリル体験 ・釣りの準備 ・釣り後の魚の処理（干物作り）	事前準備 釣り場の安全確認、氷の厚さの確認 外部連携 送迎タクシーの予約

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

アイスフィッシング準備及び釣り体験

- ・釣りの準備を自分たちでできるようになること。さらに、待ち網漁で学習した魚の分類を復習して、釣った魚の分類を行う。
- ・当日は、仲間と協力し、穴開けから仕掛けの準備を行い、実際に釣りをおこなう。実習後、釣った魚の利用を考える。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
アイスフィッシング事前準備 ＜釣り道具の確認＞ アイズドリル、釣り竿を人数分確認 仕掛けの確認 釣れると予想される魚を図鑑で調べる。 寒さに対応するための服装などを互いに確認する。	事前準備 ・アイズドリル、釣り竿を準備 ・仕掛けの準備
釣り体験 ＜移動＞ タクシーへ乗り込み、移動。	実施当日 ・事前に 2 名で釣り場へ向かい、安全の確認
＜釣り体験＞ ・アイズドリルの使い方を学ぶ。 ・仕掛けの特徴と釣り場の環境を理解する。 ・実際に釣りながら魚の分類を行う。 特に、チカとワカサギの区別を行う。 ・魚を干物にする準備を行い、干物を作成する	評価の視点 ・各自で準備及び片付けができるか ・分類ができたか ・他魚種との比較することができたか ・解剖道具を正しく使うことができたか



3. 今回の活動の自己評価

カレイ釣りに引き続き、寒冷地特有の気候を活かした海洋レジャーを体験することができた。アイスドリルで穴を開けての穴釣りは、この地域の生徒には、是非体験してもらいたい実習である。事前に、氷下待網漁を体験し、専門員からの説明を受けることで魚種に関する基礎的知識が身についていたため、釣った魚の分類に積極的に取り組むことができた。また、魚の処理に関しては、干物作りを率先して行う姿勢が見られ、資源の有効な消費を考える姿勢が養われた。

4. 今後の課題

寒さが厳しい中の実習であったため、寒さ対策が必須である。できれば、待避用のドームテントの設置ができれば、生徒の安全を保ちながら実施できるため、次年度はアイスフィッシング用のテントの用意を検討したい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし